令和５年度(2023 年度)全国学力・学習状況調査の結果について

塩尻市教育委員会

１　趣　旨

本年４月 18 日(火)に実施した「令和５年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

２　調査の概要

(1) 調査の目的（文部科学省）

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第６学年 (楢川小中学校前期課程を含む)	９	９（１００%）	４４９人
中学校第３学年 (両小野中学校及び楢川小中学校後期課程を含む)	６	６（１００%）	４８９人

(3) 調査の事項及び手法

ア　児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査(知識と活用を一体的に問う問題、記述式の問題を一定割合で導入、英語「話すこと」は口述式)

小学校調査は、国語及び算数、中学校調査は、国語、数学及び英語に関する問題

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

イ　学校に関する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

３　児童生徒に対する調査結果

⑴　教科に関する調査結果の全体概要

ア　小学校第６学年は、国語、算数それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

イ　中学校第３学年は、国語、数学及び英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。また、英語「話すこと」（参考値）は、全国と同じ傾向が見られました。

⑵　各教科の調査結果と今後の対応

ア　小学校（国語）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国平均を上回っています。様々な学習場面で目的に応じて資料を集めたり、資料を活用したりしながら、自分の考えをまとめ表現する活動を通して、情報を整理し活用する力を更に高めていきたいです。

イ　小学校（算数）

すべての領域で全国平均を上回っています。具体的な場面を設定したり、実物操作を取り入れたりして数や文字の抽象的な思考を身につけることが望まれます。答えを導き出した過程や方法を式や言葉を用いて伝える活動も行っていきたいです。

ウ　中学校（国語）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国平均を上回っています。根拠を明確にして伝えたり目的に沿ってまとめたりしていく学習を大切にしていきたいです。複数の資料を結びつけ、情報を関係づけて理解し、自分の考えと関連づけながら表現して、情報を活用する力を高めていきたいです。

エ 中学校（数学）

「知識・技能」「思考・判断・表現」の力が全国平均を上回りバランスよく力がついてきています。計算方法などの技能だけでなく、数学的な用語についても理解を深めたいです。グループで考えを説明し合ったり、自分の考えを数式や文章で記述したりしていく活動を大切にしていきたいです。

オ 中学校（英語）

「聞くこと」は、聞き取る力を伸ばす学習に継続的に取り組みたいです。「読むこと」は英語で書かれたまとまりのある文章を読み、段落ごとの主な内容を捉え全体の概要をつかむ力をつけていきたいです。「書くこと」は日常的な課題について事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を英語で表現する力をつけていきたいです。「話すこと」は日頃から自分の考えや気持ちを英語で話す経験を重ねたいです。英語での言語活動に継続的、計画的に取り組んでいくことが望まれます。

⑶　児童生徒質問紙調査結果から

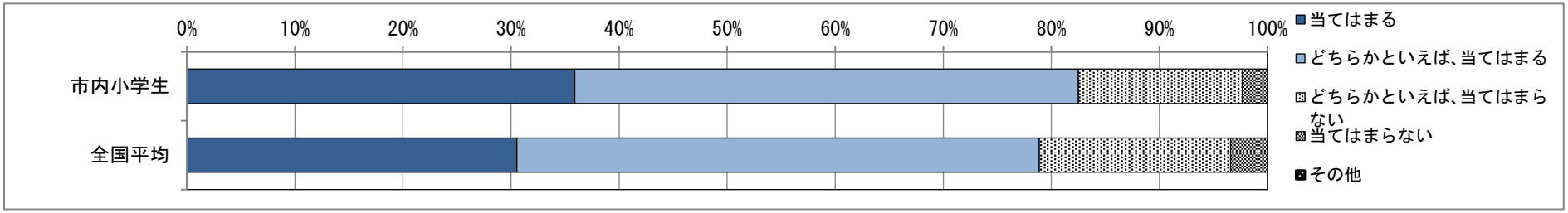
ア　生活に関する観点から

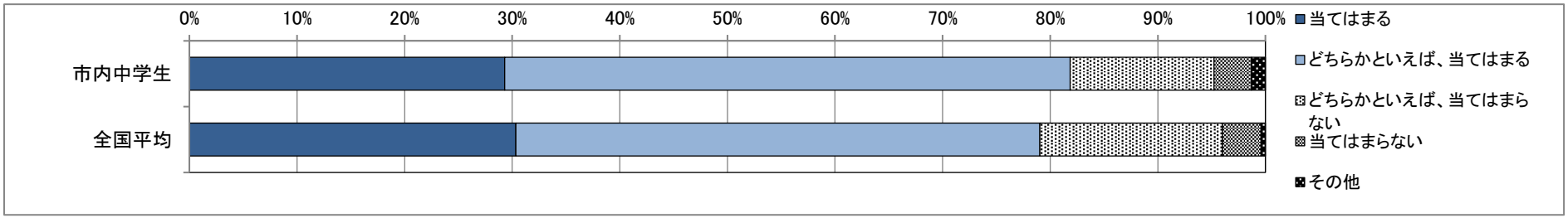
塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」を踏まえて調査結果をみると、「朝ごはんを食べている」については、「している」「どちらかといえば、している」は小学生と中学生ともに９割以上です。「就寝時刻」については８割以上、「起床時刻」については、９割以上の児童生徒がだいたい決まった時間に寝起きしており、全国や県より高く、規則正しい生活習慣が定着しています。

平日の読書時間を、「一日３０分以上」で見ると、小学生４２％（全国３７％）、中学生３５％（全国２８％）であり、全国に比べ高くなっています。また「読書は好きですか」の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が小学生８４％（全国７２％）中学生７８％(全国６６％)と全国に比べ高く、読書好きの児童生徒が多いことが分かります。

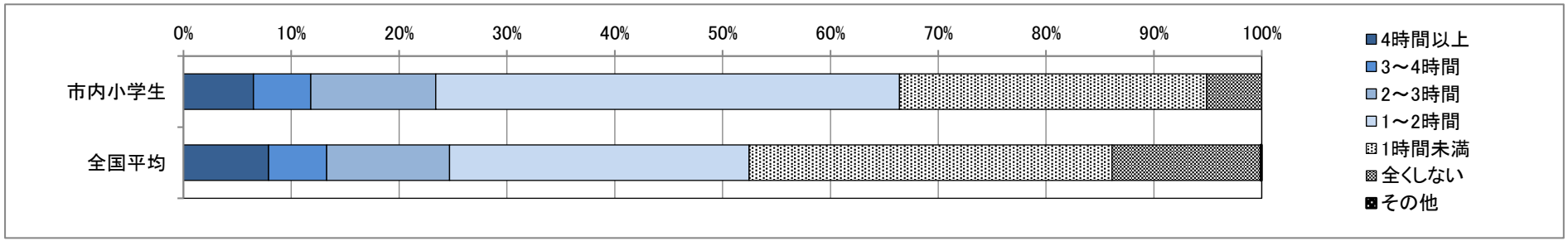
イ　学習に関する観点から

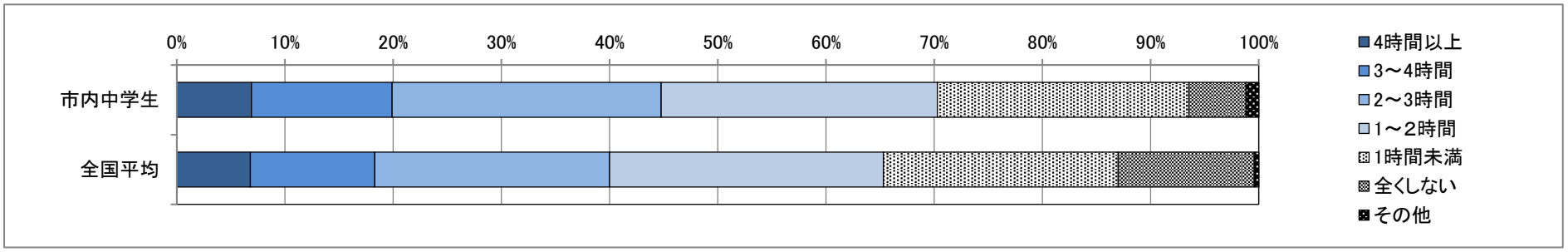
①　【授業では課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか】質問番号（小33　中37）





②　【土日・休日の家庭での学習時間】質問番号（小18　中18）

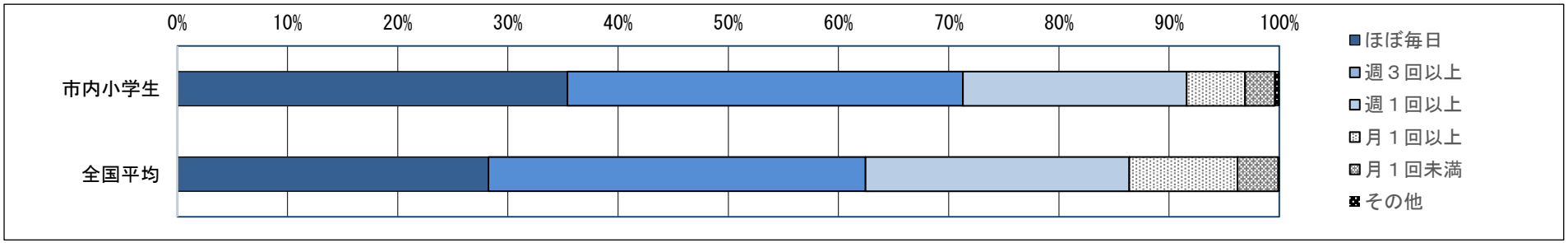


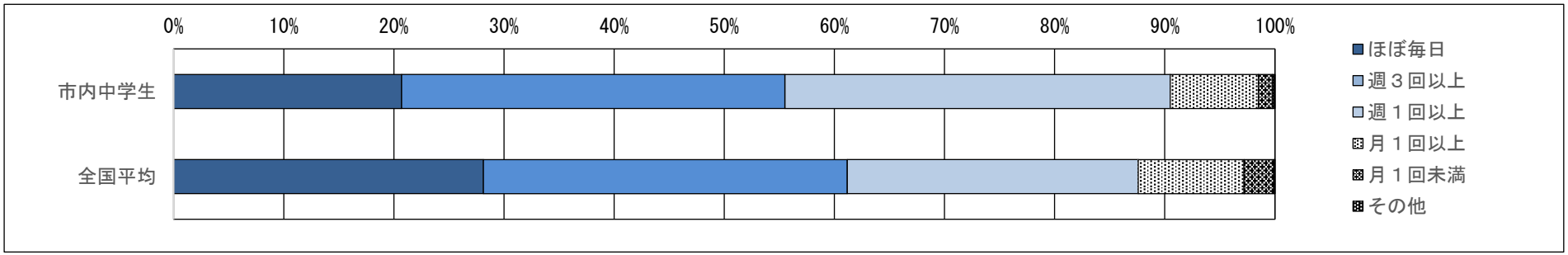


授業の課題に対する主体的な取組については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生８３％（全国７９％）、中学生８２％（全国７９％）でした。小中学校ともに全国に比べて高く、教師から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢の児童生徒が多いことが分かります。多くの子どもたちに学びに向かう姿勢が育ってきていることが伺われます。

平日の家庭学習の時間は、小中学校ともに１時間から２時間が最も多く、平日の家庭学習１時間以上の児童生徒は、小学生６２％（全国５７％）、中学生７１％（全国６６％）でした。土日・休日の家庭学習の時間は、小中学校とも１時間から２時間が最も多く、土日・休日の家庭学習が１時間以上の児童生徒は、小学生６６％（全国５６％）、中学生７７％（全国６５％）で、全国より高くなりました。また、「家で自分で計画をたてて勉強していますか」で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が小学生７９％(全国７１％)、中学生５８％（全国５５％）で、全国を上回る結果でした。本市の児童生徒は土日・休日も含め、自ら計画的に家庭でも学習に取り組み頑張っている実態が見えてきました。家庭学習でも主体性を育てることを大切にしながら、タブレット等の効果的な活用も進め、これからも家庭学習の充実に向け取り組んでいきます。

③【授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか】（小 29　中 33）

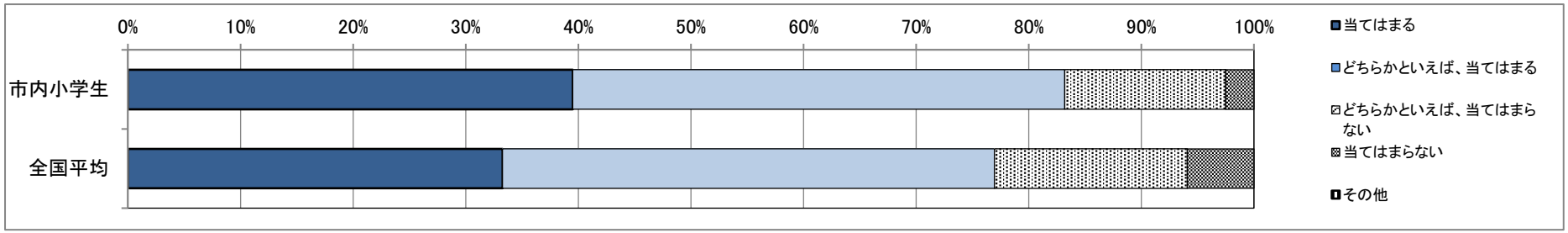


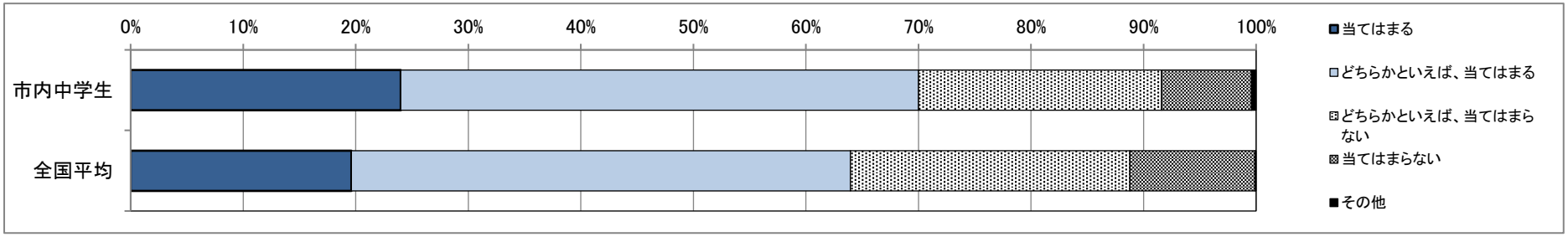


本市でも一人一人にタブレットが配備され、ＩＣＴ機器の活用を進めています。前年度までの授業でタブレット等を「ほぼ毎日」使用した児童生徒は、小学生３５％（全国２８％）、中学生２１％（全国２８％）でした。小学生はタブレット等の使用が全国平均より高い結果になりました。中学生は、全国平均を下回っていますが、昨年度は「ほぼ毎日」使用が6.7%でしたので使用が進んできています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、効果的にタブレット等を活用した実践を積み重ねながら、これからもタブレット等の活用が進むよう取り組んでいきます。

ウ　地域や社会との関わりの観点から

【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか】質問番号（小26　中30）

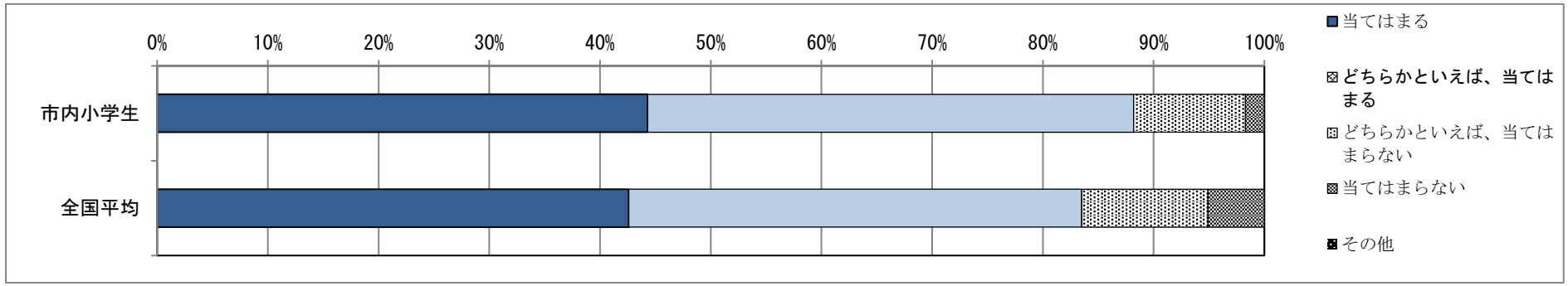


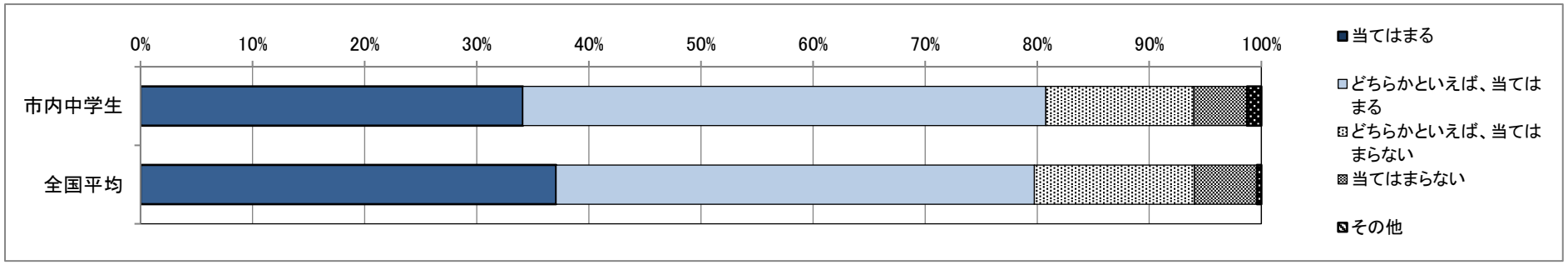


「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問については「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と答えた児童生徒は、小学生８３％（全国７７％）、中学生７０％(全国６４％)でした。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまる」と答えた児童生徒は、小学生８５％（全国５８％）、中学生５７％（全国３８％）と、２つの質問はともに全国を上回り、昨年度よりも高い結果になりました。地域の行事等も復活してきており、地域や社会への関心を持ちながら、積極的に参加している子どもたちの様子が伺えます。

エ　自分自身についての観点から

【自分にはよいところがありますか】質問番号（小４　中４）





自分にはよいところがありますかの質問については、「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校８８％（全国８４％）、中学校８２％（全国８０％）で、多くの児童生徒が自己肯定感を高めながら、前向きに生活をしていることが伺えます。昨年度は全国を４％下回った中学生も８０％を超えました。コロナ禍の中で実施できなかった学校行事や地域の方との交流なども復活したことも影響していると考えます。これからもキャリア教育や体験的活動に力を入れ、地域の方や家庭にもご協力いただきながら、互いの良さを認め合い、伝え合うことを学校、家庭、地域で大切にして取り組んでいきたいと思います。

４　学校に関する質問紙調査結果から

(1)　教科指導

☆数値（%）は、「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の中で「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計の割合

項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 34　中 34）〉 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	１００％	１００％
	全国平均 ８９．０％	全国平均 ８７．７％

ア　本市の小中学校では児童生徒が課題をもって取り組む授業が行われています。児童生徒への質問紙でも「授業では、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の合計は、小中学校ともに８０％を越え、学びに向かう姿勢が多くの子どもたちに育ってきています。

　また、上の結果からも市内すべての小中学校で、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や工夫を行っていることが伺えます。これからも授業研究会や学力向上に向けた研修などを重ねながら、将来、生きて働く児童生徒の資質・能力が高められるように、学びのプロセスを大切にした日々の授業改善に、本市のすべての小中学校で取り組んでいきます。

☆数値（%）は、「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の中で「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計の割合

項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 66　中 74)〉 学校の教員は特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか	１００％	１００％
	全国平均 ９４．９％	全国平均 ９４．１％

イ　児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を、市内すべての小中学校で行っていることが伺えます。塩尻市では各校で行われている研修に加え、市内小中学校の全教員を対象とした特別支援教育に関わる研修を毎年夏休みに開催して児童生徒への理解を深め、より適切な支援ができるように研修を行っています。特別支援教育では個別の指導計画をもとに、より適切な支援を行っていくことが求められています。個に応じた適切な支援とともに、学校におけるユニバーサルデザイン化も更に進めていきます。これからもすべての教員が研修を重ねて特別支援教育について理解を深め、個に応じた適切な支援を行っていきます。

(2) 教育課程の編成　☆数値（%）は、「よくしている」「どちらかといえばしている」「あまりしていない」「全くしていない」の中で「よくしている」の割合

項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号(小 19　中 19)〉 子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか	６６．７％	６０．０％
	全国平均 ３９．２％	全国平均 ３５．４％
項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 20　中 20)〉 指導計画作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	７７．８％	６０．０％
	全国平均 ４３．２％	全国平均 ２９．２％

教育課程の編成においては、子どもの姿や地域の現状等を基に、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している学校が、小学校、中学校ともに全校平均を上回りました。ＰＤＣＡサイクルを確立し、子ども、保護者、職員、地域の方による学校評価や児童生徒による授業評価などを適切に行いながら改善を図り、よりよい教育課程をこれからも編成していきます。

また、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域の協力も得ながら積極的に活用し、これらを効果的に組み合わせて指導計画を作成している学校が小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組も市内小中学校では行われており、全国平均を上回っています。これからも家庭、地域の方の協力をいただきながら、コミュニティ・スクールの活動にも力を入れ、地域に開かれた教育課程を編成し、教育活動を展開していきます。

(3) 地域との連携　☆数値（%）は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかというとそう思わない」「そう思わない」「取組を行わなかった」の中で「そう思う」の割合

項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 74）（中 82）〉 コミュニティ・スクールや地域学校協議会等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	５５．６％	４０．０％
	全国平均 ２７．３％	全国平均 ２９．７％

昨年度から、コミュニティ・スクールの取組が徐々に復活し、学校、地域、保護者と連携した活動が行われてきました。それに伴い、相互の理解も深まり、地域に開かれた学校づくりが進められています。コミュニティ・スクールを立ち上げている本市は、学校と地域や保護者の相互理解において、小学校、中学校ともに全国平均を上回る結果になっています。保護者や地域の方による学校の環境整備、登下校の見守り、学習や部活動への支援、学校行事への参加なども復活し、保護者や地域の方に温かく見守られながら、子どもたちは諸活動に取り組んでいます。

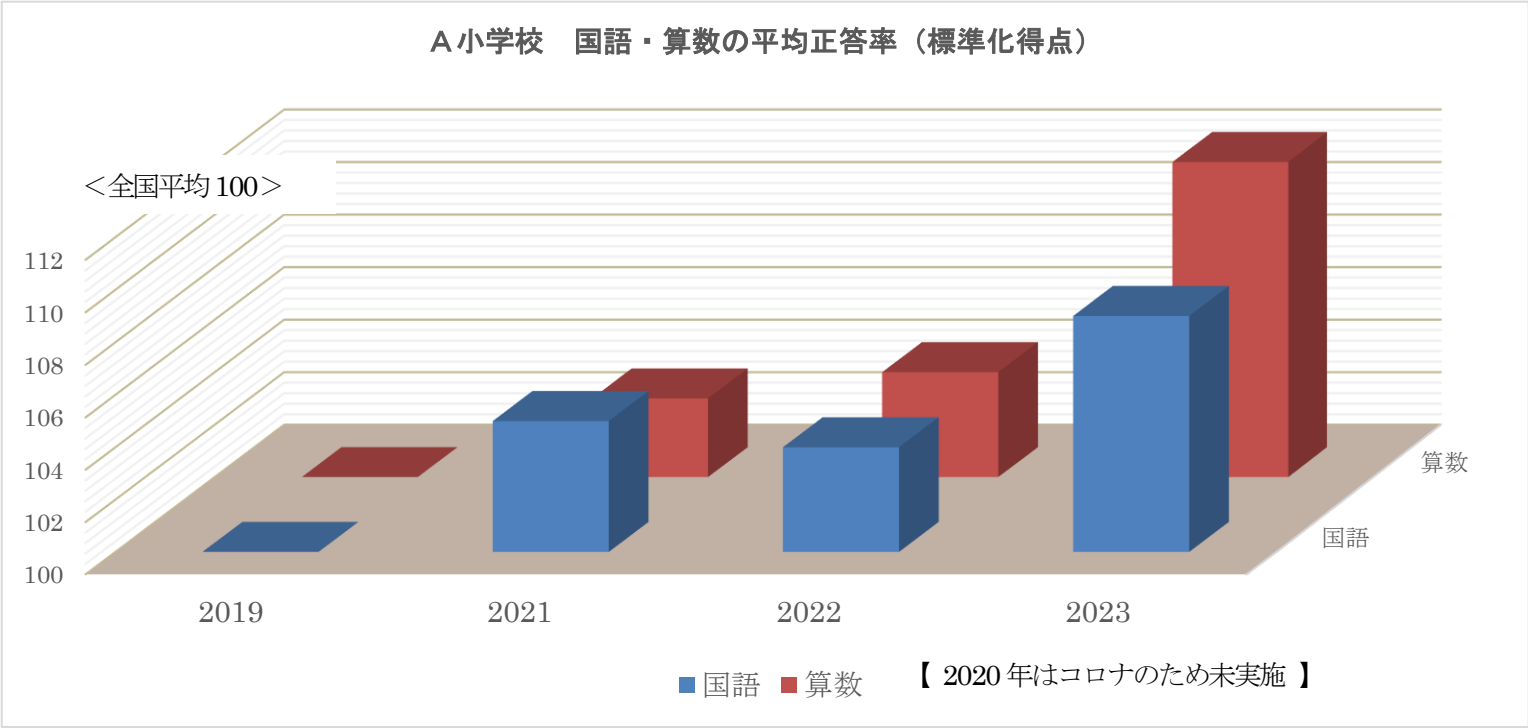
(4) タブレットなどの ICT 機器の活用　☆数値（%）は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかというとそう思わない」「そう思わない」の中で「そう思う」の割合

項　　目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 54　中 62）〉 コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分必要なサポートが受けられていますか	８８．９％	６０．０％
	全国平均 ３７．７％	全国平均 ３０．８％

児童生徒質問紙でも、授業でタブレット等を「ほぼ毎日」使用した児童生徒は、小学校３５％（昨年度 19.9%）、中学校２１％（昨年度 6.7%）と、利用が進んできていることが分かりました。本市では１５名程のＧＩＧＡスクール・サポーター（ＩＣＴ支援員）を配置して、ＩＣＴ機器の活用に関する各校へのサポートの充実に努めてきています。また、情報教育を担当する市の指導主事が年間を通して計画的に各校に出向き、授業におけるＩＣＴ機器の効果的な活用についての研修を行っています。併せて情報モラル教育にも力を入れて取り組んでいます。

市内の小中学校ではタブレットを用いた個に応じた支援も始めており、特別な支援を必要とする児童へのタブレット等を活用した支援をほぼ毎日行っている小学校は５６％、不登校生徒に対する学習活動等の支援をほぼ毎日行っている中学校は４０％と全国より高い結果になりました。今後更に授業の中での調べる学習、自分の考えをまとめ発表する学習、子ども同士がやり取りする学習などにも積極的にタブレット等を用い、活用を進めてまいります。家庭においても、タブレットの自宅への持ち帰りを進め、タブレットを用いた家庭学習に取り組んでいきます。

５　学力向上に向けたＡ小学校の取組



Ａ小学校の全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率は上のグラフ（標準化得点）のように、２０１９年はほぼ全国平均でしたが、２０２１年からは全国平均を上回り、安定した力をつけてきています。この小学校は、どのような取組で成果を上げているのでしょうか

⑴　一人ひとりに丁寧に向き合う

Ａ小学校では、高学年の算数で少人数学習を取り入れ「一人ひとりに丁寧に向き合う」授業を行ってきました。現在の６年生は２つのクラスを３つに分けたコース別学習に取り組んでいます。子どもたちの希望をもとに、習熟度に応じたコースを３つ設けて、習得した内容を活用して自ら解き方を追究したり、基本的な知識や技能を使って問題を解いたりして、それぞれの学びに合った学習を行っています。担任の先生方と少人数学習を担当している先生でコースを分担して指導を行っています。一人ひとりに寄り添いながら、子どもたちに合わせた自作プリントをつくるなどして、１０数人ずつでの少人数学習を進めています。チームで算数の指導を進めることにより、担任の先生方の負担を増やさずに、協働して教材研究が行われるようになり、学力の向上につながってきています。また、長期休みには少人数学習を担当している先生による算数の補充的な学習会が行われ、子どもたちは力をつけています。

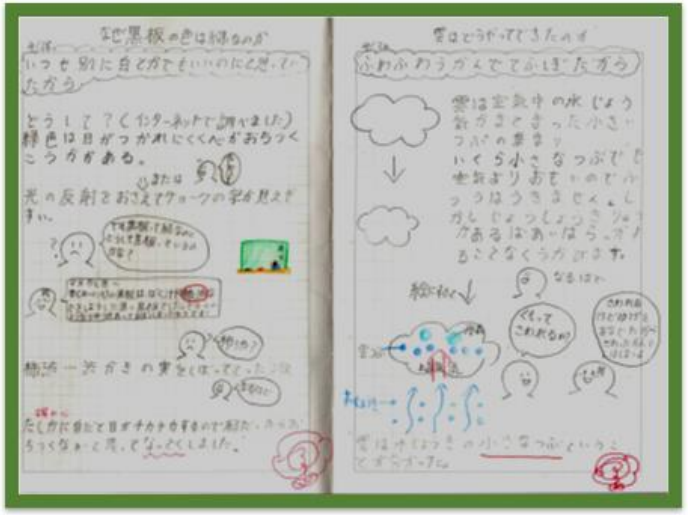
Ａ小学校の現在の６年生では、算数の少人数学習に加え、理科、音楽、家庭科、外国語（英語）で、教科担任制による授業を行っています。専門性を生かして教材等の準備が行われ、質の高い授業が展開されています。複数の先生方が子どもたちに関わることにより、多角的に子どもたちを捉えることができます。チームで情報を共有しながら児童理解を深め、個に応じた学習指導や生徒指導に生かしたり、協働での学級集団づくりに取り組んだりしています。市内の小学校には市費の学力講師が配置され、多くの学校で少人数学習が行われています。同じく少人数学習を取り入れているＢ小学校では、算数の授業の内容がよく分かると６０％以上の子どもたちが答えており、全国の４５％を大きく上回りました。

本市では、一人ひとりの育ちを応援していく「元気っ子応援事業」を進めており、子どもたちの個性や特性に応じた支援や指導に取り組んでいます。市内の小中学校では市費の支援員を数人ずつ配置して、一人ひとりに丁寧に向き合う指導・支援を進めています。Ａ小学校では充実した特別支援教育などの取組により他者理解が進んでおり、子どもたちは自然に互いの違いや良さを認め合い、クラスとしての仲間意識をもちながら諸活動に取り組んでいます。また、自己理解も進んでいて、自分に合った学び方で、こつこつと学びを積み重ねることができる雰囲気もクラスにあります。

［ タブレットを使ってアサガオの観察 ］

⑵ 授業の振り返りとＩＣＴ機器の活用

Ａ小学校では授業の振り返りにも力を入れて取り組んできました。授業の目標やねらいをもとに、授業の最後に振り返りを行い、次の授業へとつなげています。振り返りでは、授業で分かったことや考えたこと、次の授業で取り組みたいこと等をまとめ、文章で表現するなどしています。タブレットを使った振り返りも行われるようになってきています。Ａ小学校はタブレットなどのＩＣＴ機器の活用にも力を入れて取り組んでいます。授業中、タブレットなどＩＣＴ機器を「ほぼ毎日」使用していると８０％の子どもたちが答えており、全国の２８％を大幅に上回りました。個別最適な学びと協働的な学びの一対的な充実に向けて、効果的なタブレット等の活用についても実践を続けています。自らの課題を追究するためにタブレットに自分の考えをまとめながら思考を深めたり、タブレットを用いて友だちと考えを共有し、ともに考え協働して共通の課題を解決したりする学習に積極的に取り組んでいます。



［ 提出された自主学習ノート ］

⑶ 自主学習ノートへの取組

Ａ小学校の６年生は３年生の頃から家庭学習として自主学習ノートに取り組んでいます。自主学習ノートには、計算ドリルや漢字練習を行ったり、その日の授業で行ったことをまとめて復習をしたりしています。自分の興味や関心のあることを調べて自主学習ノートにまとめて提出してくる子どももいます。自主学習ノートへのまとめ方について「はじめに自主学習ノートに書く内容の、ねらいやめあてを書きます。それをもとに授業の中で分かったことや大事だと思ったことを書き、まとめを記述していきます。最後に振り返りや感想を書きます」などと担任の先生方からアドバイスをすることもあるそうです。Ａ小学校の６年生は自主学習ノートを積み重ねてきたことにより、書く力がついてきており、様々な学習場面で表現の幅を広げています。

(4) 地域に開かれた学校づくり

今年からＡ小学校で「Ａ小ライブ」が始まりました。２時間目と３時間目の間の３０分程の休み時間を利用して、Ａ小学校の中庭や多目的室に子どもたちや先生方、地域の方々が集まり、合唱やバンドの演奏を行ったり、ダンスを踊ったりするライブ活動を始めました。先生方に負担をかけないようにと校長先生自ら企画・運営をして、チラシやホームページでお知らせし、月１回程のペースで行っています。希望する人が出演し、希望する人が集まって観たり聴いたりしています。一緒に歌ったり踊ったりすることもあります。

Ａ小学校の校長先生に地域に開かれた学校づくりについてお聞きしました。「学校は地域のものです。先生方の考えで学校を地域から閉ざしてはいけません。Ａ小学校は地域の方にも活動の場を提供していきますので、そこで地域の方も自ら楽しみ、発信してほしいと思います。大人たちの楽しんでいる背中を子どもたちに見せてほしいと思います。そこから子どもたちは多くのことを学びます。Ａ小ライブはそんな思いでスタートしました。学校に来た人が普通に教室の様子を覗いていく。子どもたちも先生方も、いつも通りに授業をしている。それが当たり前のことになる。そんな地域に開かれた学校づくりを目指していきたいです」

［ 地域の方と塩尻音頭を踊る子どもたち ］

子どもたちは社会の中で育ちます。家族や地域の大人の背中を見て子どもたちは成長します。本市が導入したコミュニティ・スクールの取組により、多くの地域の方が学校に入ってきてくださるようになりました。共に活動しながら、笑顔で褒め認め励ましてくださることにより、多くの子どもたちが自分の良さに気づき、自信と将来に向けての活力を持つことができるようになってきています。市内の各小中学校でも、それぞれの地域の特色を生かし、地域の方々の協力をいただきながら、これからも地域に開かれた学校づくりを進めてまいります。

また、一人ひとりに丁寧に向き合いながら学習指導や生徒指導に取り組んでいるＡ小学校の実践に学び、市内の小中学校でも一人ひとりの児童生徒理解を深め、「らしく学び、らしく生きる」子どもたちに寄り添いながら、チームによる学習指導や生徒指導を進めてまいります。小学校の高学年では、少人数学習や教科担任制なども積極的に取り入れていきます。個々の学びのプロセスを大切にしながら、タブレット等のＩＣＴ機器の活用を進め、グループやクラスでの協働的な追究などを通して、探究的な学びにも取り組んでまいります。

６　市内小中学校の今後の取組

(1) 塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり

塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の市民運動に基づく様々な取組みが行われ、市内の子どもたちに規則正しい生活や読書の習慣が身につき、そのことが安定した学力の定着につながっています。今後も子どもたちが、家族の一員として家庭での役割を果たしながら、バランスよく学習や読書、運動や遊びを行う中で、社会的自立に向けた生活ができるように、保護者と協力して家庭生活の充実に取り組んでいきます。

(2) 多様な学びに応える不登校対応と「元気っ子応援事業」を核にした個に応じた支援

明るく楽しい学校・学級づくりを進めるとともに、子どもや保護者の声に耳を傾け、チームで多様な学びに応える不登校対応を進めていきます。一人も置き去りにしない魅力ある学校づくりを進め、市内小中学校、市教育委員会、関係機関、民間施設等が連携して、一人ひとりの子どもや保護者に寄り添った支援を

今後も進めてまいります。

また、一人一人の育ちを応援していく「元気っ子応援事業」を今後も推進して、引き続き、子どもたちの個性や特性に応じた指導の工夫に取り組んでいきます。自尊感情を育み、子どもたちの育ちに丁寧に向き合いながら、チーム支援体制の改善を図り、個に応じた支援の更なる質の向上を目指します。

⑶ 教員の指導力向上と授業改善

ア　授業のはじめに子どもたちが自ら「ねらい」や「めあて」をもち、個人での追究とグループやクラスでの協働的な追究を通して、課題を解決したり目標を達成したりできる授業を展開していきます。授業のおわりには「ポイントに沿った振り返り」をきちんと位置づけるようにし、子どもの学びのプロセスに沿った、一人ひとりが主体的に学べる授業を進めていきます。また、一人ひとりに配備したタブレットを効果的に活用する授業も進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、どの教室でもこれからの時代を生きていくための力が身につくように、授業改善に取り組みます。

イ　教科学習をはじめとした教育活動の中で「自分たちで課題を見つけ、その解決に向けて情報を集め、グループやクラスで話し合いながら探究し、まとめ、発表する」ことを通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」の力をバランスよくつけていきます。また、子どもの学びのプロセスに沿った授業展開を考え、「人・もの・こと」との関わりを大切にした体験的活動を充実させます。

ウ　学力向上のために、少人数学習やチームティーチング、小学校の教科担任制など効果的な指導法について研究をしていきます。

⑷ 地域の人的・物的資源を活かした教育活動の充実

コミュニティ・スクールを生かした教育活動が活発に行われるようになってきました。学校支援コーディネーターとの連携を密にし、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるため、「体験的な活動」や、自らの将来を考える「キャリア教育」を更に充実させていきます。地域の方の協力を得ながら地域の人的・物的環境を生かした教育活動を展開していきます。

⑸ 小中連携と９年間を見通した指導内容・方法の研究

楢川小中学校が義務教育学校として２年目を迎え、英語教育や総合的な学習の時間などの活動で確かな成果をあげてきています。両小野小学校、両小野中学校でも９年間を見通した「学びのスタンダード」を作成し、授業改善に取り組んでいます。教科指導においては昨年度、英語教育で小学校１年から中学３年までを見通した「塩尻市英語教育グランドデザイン」を策定しました。英語教育推進委員会を設置し、中学校区ごとに小学校と中学校の先生方が互いに授業を見合い、学び合いながら９年間を見通した英語教育の在り方について研究を深めています。今後更に、小中学校の他の教科指導や生徒指導においても、中学校区ごとに小中連携を図り、各校の教育目標を共有しながら、児童生徒理解を深め、９年間の系統的な指導内容・方法についての研究を進めて、一貫性のある教育の推進に努めていきます。